

| 交付対象事業の名称                            | 事業概要   | K P I   |    |            |            | 令和3年度の主な取組とK P Iへの影響   | 今後の方針  | 事務局評価                  |
|--------------------------------------|--|---|----|------------|------------|--|--|------------------------|
|                                      |  | 指標  | 単位 | R3目標       | R3結果       |  |  |                        |
| <p>守れ伝統！はばたけ鶴飼！水辺が活きる地域づくりプロジェクト</p> | <p>伝統漁法を守る若き船頭を育成するため、木曾川観光(株)のベテラン船頭が指導員となり、舟の舵をとる責任者「とも乗り」候補生を育成する。また、若手農業者団体「犬山農芸」が、先輩指導員として、若手見習い船頭とも乗りの助手「なか乗り」として育成する。市観光協会と連携し、日本の伝統漁法である「木曾川うかい」の魅力が強力にPRし、外国人観光客を積極誘致。将来的には、若手船頭が、増加する外国人観光客へのおもてなし対応力を高め、インバウンド需要の取込みを図る。</p>  | ① 木曾川うかい乗船者数(人)   | 人  | 26,900     | 3,631      | <p>【船頭育成のための委託料】<br/>令和元年度末までに3名の友乗りが合格となった。ただし、全体として船頭の人数不足は解消されていないため、令和2年度以降市単独で育成事業を継続することとした。訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響、及び8月中旬を中心とした増水被害により、機会確保が非常に難しい状況であったが、最終的には予定していた訓練回数を行うことができ、年度末の関係者打合せにおいて新たに2名の友乗りが合格、計5名となった。ただし、全体として船頭の人数は十分でないため引き続き、中乗り、友乗りともに訓練を継続して少しでも多くの船頭を育成し鶴飼事業の安定的な運営を図る。<br/>委託料計：9,634,240円<br/>※鶴舟・屋形船出船業務委託料</p> <p>【河川空間をもっと楽しい空間にするための、モデル事業の実施】<br/>河畔における夜の賑わいづくりのため、試験的に実施している「宵のいぬやマルシェ(ナイトバザール)」を、令和元年度以来の実施を試みたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、開催を断念した。</p>  | <p>【船頭育成のための委託料】<br/>令和2年度から市単独事業として船頭育成事業を展開しており、令和4年度まで継続が決定している。訓練を充実させ友乗り、中乗りとともに安定して持続できるような人員の確保を目指す。また、令和5年度以降についても、保存継承の観点から技量の向上は必須であるため、実践の中で訓練が行えるよう、工夫して進める。</p> <p>【河川空間をもっと楽しい空間にするための、モデル事業の実施】<br/>新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながらではあるが、令和4年度は、試験的に実施している「宵のいぬやマルシェ(ナイトバザール)」を開催する予定。木曾川河畔(内田地区)の活性化に向け調査委託業務を実施することもあり、今後は、実証事業を経て、民による実施主体がナイトバザール運営の役割を担い、持続可能な夜の賑わい、地域経済の好循環を目指す。</p>   | <p>地方創生に相当程度効果があった</p> |
|                                      |  | ② 見習い船頭の乗船回数(回)   | 回  | 336        | 628        |  |  |                        |
|                                      |  | ③ 一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)                              | 人  | 3          | 5          |  |  |                        |
|                                      |  | ④ 木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)                            | 円  | 88,850,000 | 11,991,362 |  |  |                        |
| <p>観光を産業の柱へ！！みんなが潤うまちづくり事業</p>       | <p>本市が有する多くの課題に対して、「勤と経験」ではなく、数値(データ)をもとに方針と戦略を整え、解決にあたる。「シェアリング」の仕組みを用いて参入のハードルを下げ、事業者を始めとして若者から高齢者まで誰もが気軽に観光産業に参画できる場と機会を作り、新たな特産品開発など、ビジネスの創出も促すことによって、将来においては観光を大きな産業に成長させる。具体的には以下の事業を実施する。</p> <p>①「多くの観光資源を持つ」ことを活かして「稼げるまち」になるために必要なデータの収集・分析及び戦略の策定</p> <p>②「(仮)地域で稼ぐ研究会」の開催とお試し事業の実践</p> <p>③シェアリングエコノミーを活用して市域全体で「稼ぐまち」を目指す。</p> <p>④工芸品・特産品のバージョンアップを図る</p> <p>⑤学生が活躍できるフィールドづくり</p> | ① 市の支援を受けて、新たにインターネットの体験予約サイトに登録された体験型観光メニューの利用者数(延べ人数) | 人  | 160        | 107        | <p>【観光戦略の策定】<br/>20年先を見据えた10年の計画である、「犬山市観光戦略」は令和4年3月に策定を完了した。策定にあたっては、犬山市観光戦略会議及び専門部会の附属機関による充実した討議、及び少人数での観光まちづくり井戸端会議などでの意見交換を踏まえ、戦略策定に役立てることができた。</p> <p>【「(仮)地域で稼ぐ研究会」の開催】<br/>令和元年度から開始した観光まちづくり会議((仮)地域で稼ぐ研究会)は、市民、事業者、まちづくり団体などの観光に関わる方が集い、現在の課題を共有し今後の取組みについて具体的な意見交換や実践を目指す会議体として設定、140名以上の参加を得て戦略策定に役立てることができた。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けあらかじめ場所と時間を定めての開催は困難となった。令和3年度も同様の状況が続いたが、1-5名程度の少人数で市職員が訪問する形の井戸端会議形式で開催し、多くの意見を受け気づきを得ることができた。</p> <p>お話し事業についても、コロナウイルス感染症の影響により「事業内容検討～準備～実施～効果検証」というプロセスで事業を進めることが困難となったため、実施を断念した。</p> <p>【シェアリングエコノミーの普及・啓発の拡充及び周知】<br/>シェアリングエコノミーの普及・啓発は(一社)犬山市観光協会と連携協力し、取組みを進めている。ホスト開拓の為、個別訪問やオンラインでの勉強会開催、チラシやSNSでの周知啓発を積極的に実施した。ゲストの拡大については、現在活用しているメインのプラットフォームの浸透度が十分でないことも含め、今後ゲスト拡充の工夫を進める。そうした中、令和3年度には新たに宿泊施設との連携模索を開始し、具体的なゲスト獲得のための協議を進めることができた。コロナウイルス感染症の影響による観光客の減少により、シェア駐車場の利用額が減少した。また、駐車場シェアの説明会開催を予定していたが、需要の少ない状況が続いているなかで新規の駐車場を増やしていくことは困難と判断し、開催を見送った。</p> <p>【学生によるまちのにぎわい創出】<br/>金城学院大学学生による夜の賑わいづくり検討を進めてきた。定期的な意見交換やプレゼンテーションを受け、犬山観光に有益な提案を得ることができた。なお、開催にあたっての事業費が不要であったため、金額の計上はしていない。</p> <p>【有識者会議による検討】<br/>観光戦略会議及び専門部会の附属機関により、具体的で熱心な討議を進めることができた。</p> | <p>【観光戦略の策定】<br/>令和4年度以降は、犬山市観光戦略で捉えた課題、定めた目指す姿と基本理念、重点プロジェクトなどを具体的に一つずつ進めていく。また、市だけでなく、団体、市民、事業者などと連携した推進体制を構築し取組みを強化していく。</p> <p>【「(仮)地域で稼ぐ研究会」の開催】<br/>観光まちづくり会議は令和4年度以降も継続し、課題の改善の為、お話し事業等も含め具体的な取組みに繋がる議論を進める予定である。特に城下町地区(本町通り)での対話の機会を積極的に設け課題解決に望むほか、木曾川河畔内田地区での対話も開始する。</p> <p>【シェアリングエコノミーの普及・啓発の拡充及び周知】<br/>シェアリングエコノミーの仕組みを活用した体験型観光コンテンツの造成及び充実は今後4年度以降も引き続き継続する。4年度は引き続き宿泊施設との連携を強化するとともに、地域団体との連携によるコンテンツ造成を積極的に進める予定である。駐車場需要の見込まれる時期や場所を勘案し、コロナウイルス感染症の影響を見据えながら、土地所有者への適切なアプローチを実施し新規登録につなげていく。</p> <p>【学生によるまちのにぎわい創出】<br/>金城学院大学との連携は令和4年度以降確定していないが、機会を捉えて何らかの取組みを進める。また地元大学(名古屋経済大学)と連携し観光振興に資する取組みを模索する。</p> <p>【有識者会議による検討】<br/>観光戦略策定後、具体的な取組みを開始するが、定点で進捗状況を把握し効果的な取組みとするため、有識者(戦略会議)に報告し助言を受けられる機会を引き続き設ける。</p> | <p>地方創生に効果があった</p>     |
|                                      |  | ② (仮)地域で稼ぐ研究会への参加者数(延べ人数)                               | 人  | 300        | 38         |  |  |                        |
|                                      |  | ③ (仮)地域で稼ぐ研究会で実施されたお試し事業の数                              | 件  | 5          | 0          |  |  |                        |
|                                      |  | ④ シェアリングエコノミーを活用した駐車場の利用額                               | 円  | 622,100    | 102,640    |  |  |                        |

| 交付対象事業の名称                                 | 事業概要   | K P I   |                                      |  |   | 令和3年度の主な取組とK P Iへの影響   | 今後の方針   | 事務局評価           |
|---|--|---|--------------------------------------|--|---|--|---|-----------------|
|   |  | 指標  | 単位                                   | R3目標   | R3結果  |  |   |                 |
| 犬山市協働プラザを拠点にした人材育成で地域の資源の活用、課題解決事業        | <p>本事業は、総合的なまちづくりのエンジンとなる拠点「犬山市協働プラザ」を設置、運用するものである。H29から取り組んできた前身事業の土台を活かし、情報を収集・発信し、対話の場によって新たなアイデアを生み出し、地域の課題解決につながる事業が企画・実施されていく一連の仕組みを構築する。多様な人材や団体が出入りし、活動の拠点や情報交換が可能となる空間を提供すると共に、地域資源の情報をより広範囲に、アウトリーチを基本として収集し続け、資源とプレーヤーをつなぐ、また実践された事例のノウハウを提供するための情報発信や相談機能を有する拠点となる。</p> <p>また、全国の市町村にも中間支援機能を担う施設は設置されているが、連携の機会が限られているため、他市町の中間支援機関とも学習交流会として情報交換を行いながら、中間支援人材を育成していく。</p> <p>加えて、現在山積している地域課題の分野は多岐にわたり、各地域で活躍する人材についても育成が必要となっている。そのため、他の人材育成メニューについても実施していき、多面的に事業を推進していく。</p> | <p>① 犬山市協働プラザの一連の仕組みから生み出される事業件数</p> <p>② 地域資源バンクの登録件数</p> <p>③ 犬山市協働プラザの相談対応件数</p> <p>④ 犬山市協働プラザの自主事業の実施に伴う収入額</p>                                 | <p>件</p> <p>件</p> <p>件</p> <p>円</p>  | <p>2</p> <p>120</p> <p>60</p> <p>410,000</p> | <p>3</p> <p>31</p> <p>129</p> <p>36,000</p> | <p>【犬山市協働プラザ運営事業】<br/>犬山市協働プラザの運用2年目となり、初年度の経験を踏まえ各事業を実施した。それぞれの事業で件数や参加者数の増加となり、KPI①の事業も3件生み出すことができ、その後市民活動団体の登録へとつなげることができた。KPI②の地域資源バンクの登録件数は目標を下回ったため、アウトリーチによる情報収集に注力していく。</p> <p>【多分野の官民協働人材育成事業】<br/>新たな社会的活動にチャレンジするための助成事業を実施し、計6事業が実施された。こうした事業の実施により人材が育成され、KPI①の事業の実施やKPI②の登録件数につながっていく。また、市民活動の情報を分かりやすく発信するため、「見せ方・伝え方」講座を開催した。加えて、市民活動の情報発信の場として、愛知北FMで市民団体の活動内容の紹介や会員募集、イベント内容を発信した。</p>   | <p>【犬山市協働プラザ運営事業】<br/>KPI①③については目標を達成しているものの、KPI②④については下回っている。KPI②についてはシェアリングエコノミーの導入とアウトリーチによる情報収集を強化し、目標達成を目指していく。KPI④についてはコロナ禍の影響もあり、集客を伴うイベント等の開催が難しく達成は困難であるが、手法を検討し可能性を見出していく。</p> <p>【多分野の官民協働人材育成事業】<br/>前年度の成果を検証し、見直しを行っていく。また、令和4年度も「見せ方・伝え方」講座の開催と愛知北FMを通じて市民団体の活動内容の紹介等を継続する。</p>  | 地方創生に相当程度効果があった |
| 「安心」は「住む」の巷丁目番地！災害に強い魅力あるまち犬山シティプロモーション事業 | <p>犬山市の特色である自然災害への強さと併せて、積極的な感染症予防に取り組むことで、「安心・安全に暮らせるまち犬山」として、住宅購入予定者に焦点をあてたシティプロモーションを実施することで、若い世代の転入者を増やす。具体的には以下の事業を実施する。</p> <p>①ICT町内会（自治会）システム導入事業</p> <p>②窓口対応時間短縮事業</p> <p>③犬山市ジュニア救命士育成事業</p> <p>④「安心・安全に暮らせるまち犬山」シティプロモーション事業</p>   | <p>① 20代、30代の転入者数(人)</p> <p>② 市の支援を受けて、新たにICT町内会（自治会）システムを導入する町内会数(団体)</p> <p>③ 市が開催する移住・定住の相談会への参加者数</p> <p>④ 転入時のアンケートで犬山市の災害への強さを評価して転入した人の数</p> | <p>人</p> <p>団体</p> <p>人</p> <p>人</p> | <p>1,482</p> <p>3</p> <p>5</p> <p>10</p>     | <p>1,723</p> <p>7</p> <p>0</p> <p>8</p>     | <p>【ICT町内会（自治会）システム導入事業】<br/>令和3年度はシステム導入の実証実験として参加町内会を公募し、7町内会が参加・運用を行った。</p> <p>【窓口対応時間短縮事業】<br/>「書かなくていい窓口」のシステムを導入し、窓口で市民が書類を記載する時間と、異動に伴う他課の手続きで何度も同じことを書く手間を軽減した。</p> <p>【犬山市ジュニア救命士育成事業】<br/>令和3年度は犬山北小学校（75名）、犬山中学校（200名）でモデル校として指定し、講習を実施。アンケートを集計し課題、効果を検証した。</p> <p>【「安心・安全に暮らせるまち犬山」シティプロモーション事業】<br/>令和3年度中に、住む場所としての犬山市を紹介するシティプロモーション用動画を作成する予定だったが、新型コロナウイルス感染症によるまん延防止措置により、撮影スケジュールを設定することができず、動画制作は令和4年度に見送ることとした。また、住宅展示場における移住・定住イベント時に説明会を開催する予定だったが、これも新型コロナウイルスの影響で中止となり実施できておらず、K P I ③「市が開催する移住・定住の相談会への参加者数」は「0」となってしまった。</p> <p>町内会システムや「書かなくていい窓口」システムの導入は実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響によりシティプロモーションに関する取組みは未実施となってしまった。したがって、KPI①及び④に関しては、本事業によってもたらされた成果とは言い難いが、昨年度（令和2年度）までに実施してきた住宅展示場における移住・定住イベント時の説明会や、シティプロモーション用に作成したPR媒体（いぬやまブック）等の効果が一助となった結果と考えられる。</p> | <p>【ICT町内会（自治会）システム導入事業】<br/>令和4年度も引き続き実証実験を行っていき、令和5年度から本格運用に向けて準備を進める。</p> <p>【窓口対応時間短縮事業】<br/>よりよい運用方法を検討していくとともに、令和5年2月「マイナンバーカード所有者の転出・転入ワンストップ化」が開始することで、事前に転入情報を得ておくことができるため、窓口での対応時間をさらに短縮していく。</p> <p>【犬山市ジュニア救命士育成事業】<br/>令和4年度から市内の14校、小学5年生及び中学2年生にジュニア救命士育成プロジェクトを実施する。</p> <p>【「安心・安全に暮らせるまち犬山」シティプロモーション事業】<br/>令和3年度に作ることができなかったシティプロモーション動画を制作し、犬山市の魅力を市内外へ発信する。また、住宅展示場における移住・定住イベントにあわせて相談会を開催し、犬山市への移住・定住につなげる。加えて、以前より予定していたPR媒体（現時点ではカレンダーを想定）を作成し、ふるさと納税の返礼品とともに発送する予定。</p> <p>令和4年度は、シティプロモーションを様々な機会でも促進し、犬山市の特色である自然災害への強さと併せて積極的な感染症予防に取り組んでいる「安心・安全に暮らせる犬山」をPRし、若い世代の転入者数を増やしていく。</p> | 地方創生に相当程度効果があった |